

新年早々、世界同時株安の中、NISAでも活用されている積立投資は有効か？

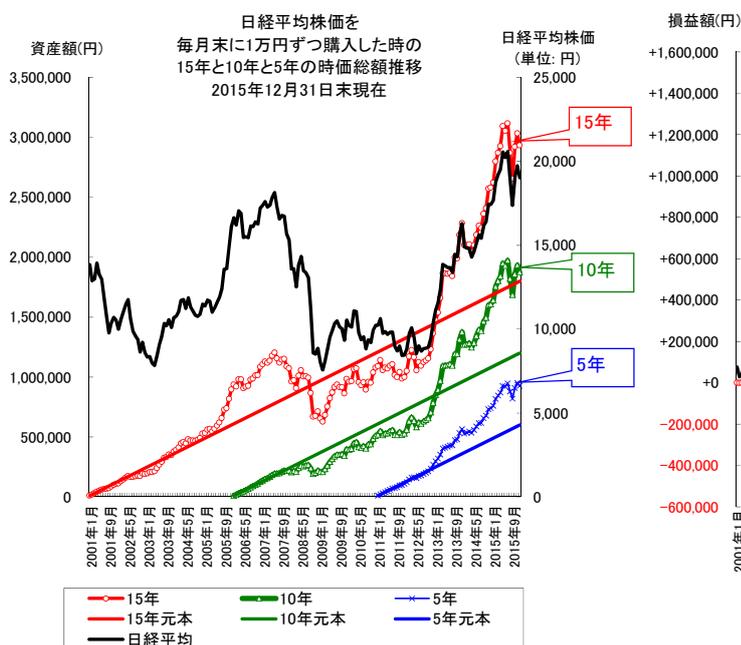
商品企画部 松尾 健治
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

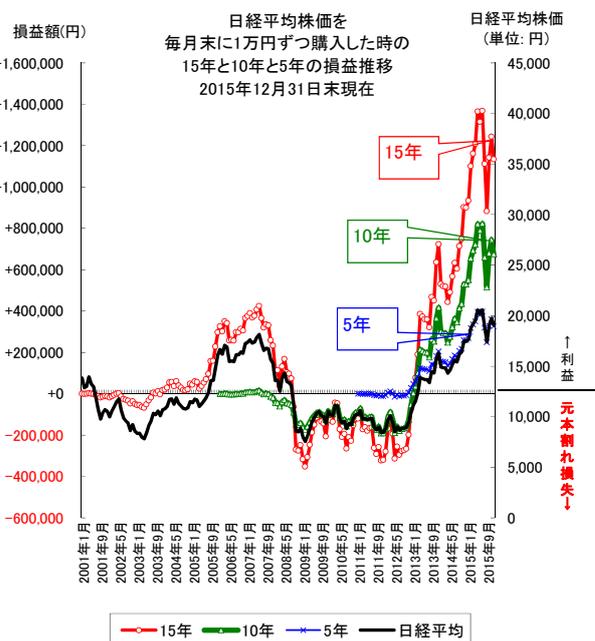
新年に入り世界同時株安の中で積立投資は有効か？

新年早々の2016年1月12日、日経平均株価が17218.96円、前年最終取引日比-9.53%(引け値ベース)と軟調である。世界第2位の経済大国である中国景気の減速、世界第1位の経済大国である米国の利上げ等による世界同時株安の中での日本株軟調だ。その中、2016年で3年目となった(成人)NISA(少額投資非課税制度)や4月から投資開始となるジュニアNISAにおいて、どの様な投資をしようか検討している人もいるだろう。例年、NISAでは1月の投資額が年間で最も大きくなる季節性が見られ、今年から非課税枠が年120万円に拡大した事もあり、投資に関心をもつ人が増えていそうである。前回コラムでは、NISAの口座開設者が抱える問題の一つ「何に投資をするか迷っている」について取り上げたが(URLは後述[参考ホームページ])、今回は、前回の予告通り、もう一つの「投資の時期を見極めている」について取り上げる事とする。

昨年10月6日の日本経済新聞夕刊に「日本株の歴史から学べる教訓は、1つの資産に集中投資してそれがはずれば、いくら長期投資でも報われにくいというリスクだ。…(略)…。リスクを避ける手法の一つは時期と対象の分散だ。日本のバブル崩壊後、世界全体の株価指数に連動する投信があったとして毎月定額で積立投資していれば、資産は14年末時点で累積投資額の3倍弱になっていた。」(URLは[参考ホームページ]参照)とあった。今年初めのような軟調相場は元より、昨年のようなボラタイルな相場、さらにはかつて起きた急落相場(2008年9月15日のリーマン・ショック等)などで積立投資は本当に有効だったのだろうか？それを検証する。まず下記は、日経平均株価について、昨年12月末までの投資期間5年間、10年間、15年間の元本とリターン(損益)をグラフにしたものだ。日経平均株価は昨年6月24日に20868.03円と1996年12月5日以来18年6カ月ぶりの高値を更新、いずれの投資期間でも元本を大きく上回る利益となった。だが、その後9月の急落で利益が大きく減った。しかし昨年12月末にかけて再び利益を戻している。



(出所:ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)



(出所:ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

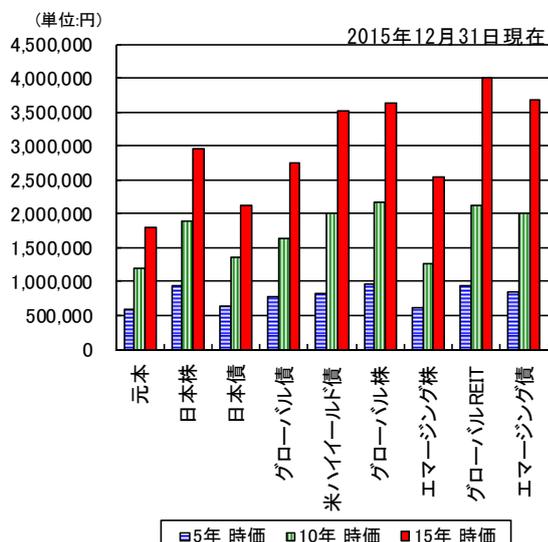
日経平均株価は 225 銘柄から構成されており、かなり分散されていると言える。だが、同じ日本株でも機関投資家がベンチマークとしている事も多い TOPIX/東証株価指数(2015 年 12 月 31 日現在 1932 銘柄、<http://www.jpx.co.jp/markets/indices/related/value/>)ではどうだろうか。さらに個人投資家が投信経由で NISA でも投資可能な日本債やグローバル債、米ハイイールド債やグローバル株、エマージング株やグローバル REIT、エマージング債などではどうだろうか。実際、NISA で投信積立を行う新規投資家においては、12 月はグローバル株ファンドが一番人気で、2015 年 1~12 月では日本株ファンドが人気だった(2016 年 1 月 12 日付日本版 ISA の道 その 126 参照~後述 URL[参考ホームページ]参照)。加えて、時期の分散を検証してみたい。前述したように同じ 2015 年 6 月末に売却した場合には利益が大きかったが、その 3 カ月後の 9 月末では大きく減り、12 月末にかけて戻している。ここは売却時点の検証をすべきであろう。以下ではそのあたりも配慮した多様な検証を行う事とする。

積立投資を多様な対象、多様な期間で検証する

積立投資の多様な検証をすべく、定額投資(等金額投資、ドルコスト平均法)による積立のリターン/リスクを投資商品のベンチマーク別に見る。検証は、毎月末に 1 万円ずつ積立購入してきたケース、つまり、毎月 1 万円定額の積立を、投信に使われることの多いベンチマークで見る。ちなみに、(成人)NISA の年間投資上限額は現行 120 万円で、単純に 12 で割ると月 10 万円となる。だが、実際の NISA1 口座あたりの毎月の積立設定額は全平均で約 3 万円であり(2014 年 12 月末の金融庁公表資料より)、わかりやすくすべく、若者や働く世代にも現実的な金額の 1 万円としている(*ジュニア NISA と似る部分の多い「こども(学資)保険」でも月 1 万円が多い~2014 年 11 月 4 日付日本版 ISA の道 その 78~後述 URL[参考ホームページ]参照)。それを 5 年、10 年、15 年という 3 つの投資期間について見る事とする。

下記グラフは左が時価で、右が損益である(*共に 2015 年 12 月 31 日時点で、手数料等は無視)。5 年ではグローバル株(僅差で日本株)のリターンが最も好く、10 年でもグローバル株(僅差でグローバル REIT)のリターンが最も好く、15 年ではグローバル REIT のリターンが最も好かった。実際 NISA で投信積立を行っている投資家にグローバル株ファンドが人気であった事からすると、現状では合理的な投資だったと言えそうである。

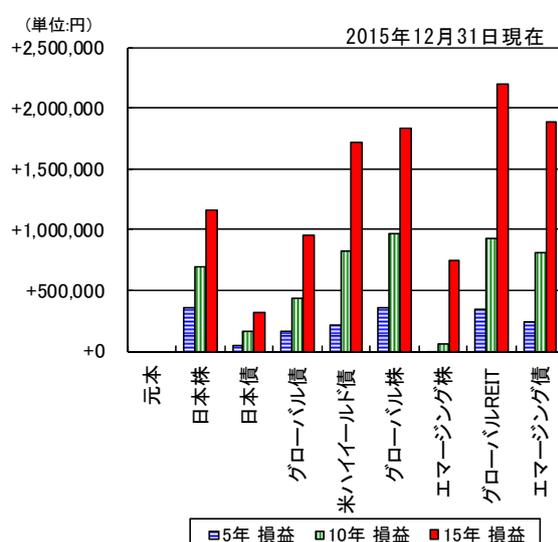
2015年12月31日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の時価 *左から投資期間 5年・10年・15年。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)
*ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを使用している(以下同じ)。

投資期間 5年・10年・15年

2015年12月31日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の損益 *左から投資期間 5年・10年・15年。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

続いて売却時点を変える。投資時期のリスクを考慮して時間分散をはかり積み立てしても、売却時点の状況により仮に投資期間が同じでも結果は異なる。今回の様な株安時は尚更である。2016年1月4日付日本経済新聞電子版は、4資産分散の積み立て投資を毎月1万円ずつ10年間続けた場合の結果(投資期間:1989年1月~2015年9月、異なる10年間の全201区間)を出しており、「積み立ての場合、201区間の平均利益は24.9%。元本120万円が10年間で約150万円に増えた計算だ。最も良い10年間の場合は55.9%で約187万円まで増える。逆に、最悪の10年間だと元本を1割以上割り込む結果になった。特に成績が悪かったのは、積み立ての終了時期がリーマン・ショック直後になった区間。積み立ては後半になるほど投資額が膨らむため、投資をやめる時期の相場環境に結果が大きく左右される。」と報じていた。そこで、売却時点も変えて検証する。

2006年から2015年の各年末、計10の売却時点で見ると、順に投資期間5年のもの、10年のもの、15年のものとなっている。各々、左グラフが毎月1万円ずつ購入し続けた場合の時価、右グラフが損益である。

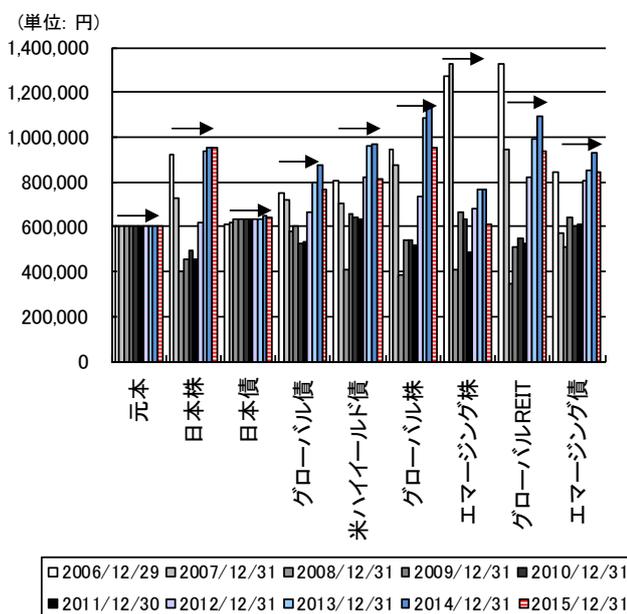
下記グラフの5年を見ると、2006年および2007年末であれば、エマージング株とグローバルREITはとても好かった。しかし、リーマン・ショック(2008年9月15日以降)後にエマージング株もグローバルREITも損失となった。だが、それも2012年以降は回復、2014年にかけて利益は拡大する。ただエマージング株は2015年の12月末に売却すると利益がほとんどなかった。

日本株は2008年から2011年の年末まで損失であったが、2012年によりやくプラス転換、2013年から2015年は利益となった。ただ日本株の2015年に関しては年末時点での結果であり、もし2015年6月末までの5年間では年末に比べ利益は一層拡大していたが、9月末までの5年間では逆に減少した(2015年9月末の結果については、2015年10月13日付日本版ISAの道その117~後述URL[参考ホームページ]参照)。

次頁上段グラフの10年は下記グラフの5年に比べ全般的に黒字化、そして、次頁下段グラフの15年になるとさらに黒字化が鮮明となっている。前年のようなボラタイルな相場展開の中でも積立投資は有効と言えそうである。

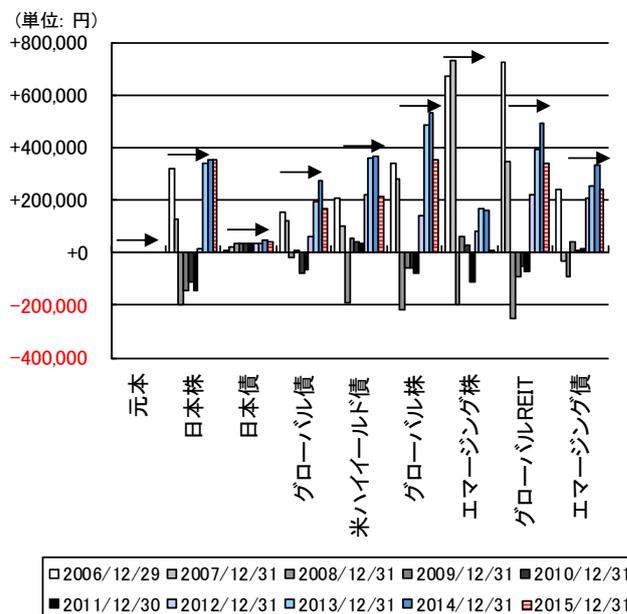
投資期間 5年

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の 時価
 *左から、2006年~2015年の各年末。



(出所: プルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

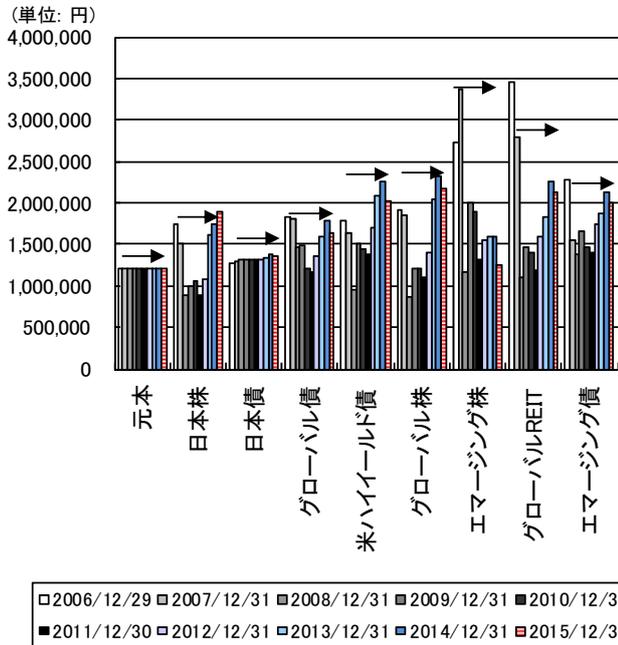
毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の 損益
 *左から、2006年~2015年の各年末。



(出所: プルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

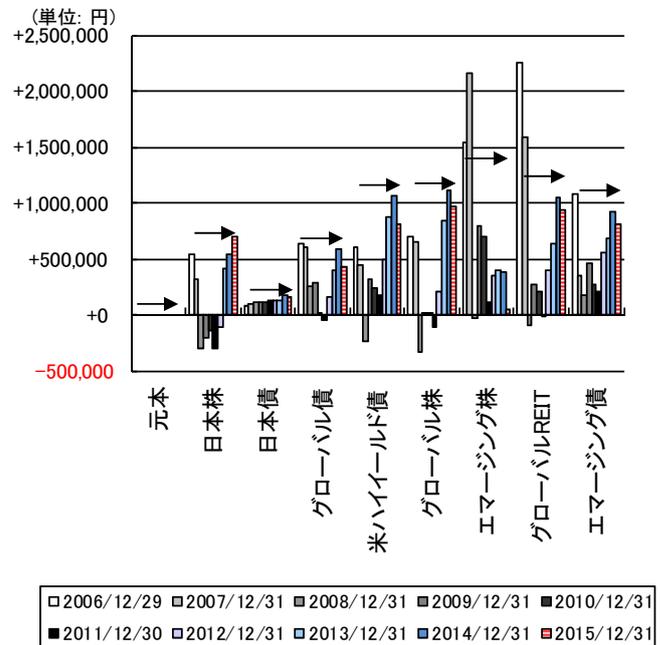
投資期間 10年

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の 時価
*左から、2006年～2015年の各年末。



(出所: プルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

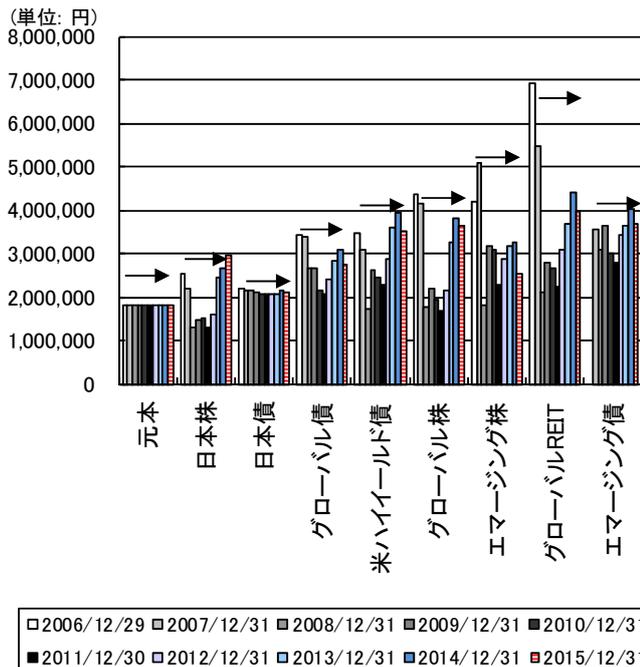
毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の 損益
*左から、2006年～2015年の各年末。



(出所: プルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

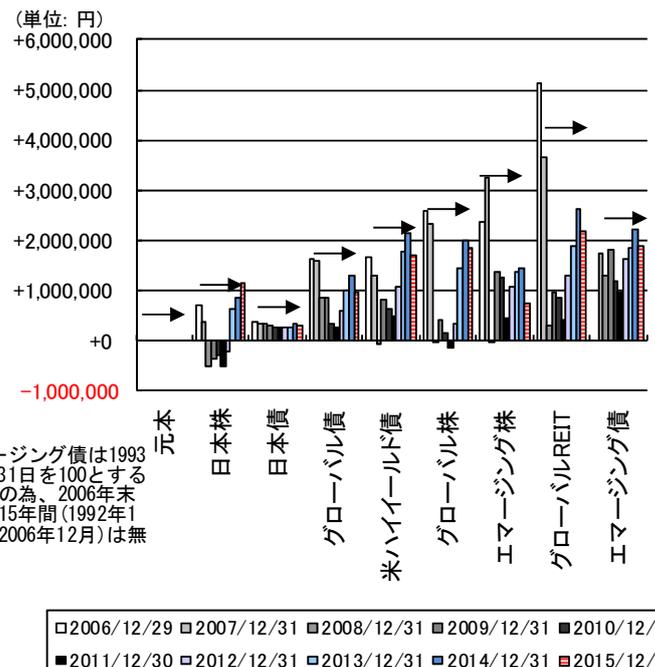
投資期間 15年

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の 時価
*左から、2006年～2015年の各年末。



(出所: プルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の 損益
*左から、2006年～2015年の各年末。



(出所: プルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品企画部が作成)

*エマージング債は1993年12月31日を100とするデーターの為、2006年末までの15年間(1992年1月から2006年12月)は無い。

以上だが、これらのリターン/リスクの大小や安定さを良く見て、投資家は自身のリスク選好度や好み、わかりやすさに応じ投資をする事が奨められよう。投信を前提としているので、以上でも銘柄は十分に分散されているが、さらに、これらを組み合わせたバランス型ファンドやアセットアロケーション型ファンドも良いかもしれない。

今年 2016 年から、(成人)NISA では投資額が年間 120 万円と毎月定額の積み立てがしやすい額になった。また、ジュニア NISA では 0 歳から長期で非課税メリットを享受する投資が可能となっており、長期で投資する有効性については「積立投資をした場合に 60 歳時に資産がいくらになるかを開始年齢や資産配分別に試算した。大事なのは投資を早く始めること。退職金 1500 万円を除く 2500 万円を運用ゴールとすると、若い頃に始めれば月々の積立額は少なくとも成功確率が高い。」(2016 年 1 月 10 日付日本経済新聞電子版)とも言われる。

2016 年の干支は申(さる)年で「騒ぐ」の年である。株安で始まった 2016 年だが、動揺する事なく、ここに掲載したリターンやリスクを参考に積立を検討、ジュニア NISA、成人 NISA、職場積立 NISA、そして個人型 DC(確定拠出年金)と言った節税出来る金融商品を使い、投資をして資産形成の一助にしてほしいものである。

以 上

[参考ホームページ]

2015 年 10 月 6 日付日本経済新聞夕刊「米大恐慌に負けた日本株」…

「<http://www.jsda.or.jp/shiryochousa/nisajoukyou.html>」、2015 年 10 月 13 日付日本版 ISA の道 その 117 「日経平均株価乱高下! この様なボラタイルな相場展開の中でこそ NISA でも活用されている積立投資!!」…

「<http://www.am.mufg.jp/text/kam151013.pdf>」、2016 年 1 月 4 日付日本経済新聞電子版「積み立て投資は 10 年続けよ『勝率』は 9 割“完璧”安心老後のポートフォリオ」…

「http://www.nikkei.com/money/column/nkmoney_tokushu.aspx?g=DGXMZO9423455020112015000000」、2016 年 1 月 12 日付日本版 ISA の道 その 126「NISA 向けファンドは 2015 年 12 月に過去最大の純流入! 季節性と郵政 3 社株も影響。2016 年 1 月はさらに期待大。人気の投資先は 12 月がグローバル株、2015 年 1 年間で日本株。」…「<http://www.am.mufg.jp/text/kam160112.pdf>」、2015 年 4 月 24 日付金融庁「NISA 口座の利用状況について」2014 年 12 月末の積立投資契約件数・積立設定額…

「<http://www.jsda.or.jp/shiryochousa/nisajoukyou.html>」、

2015 年 7 月 3 日付金融庁公表「金融モニタリングレポート」コラム積立投資(103 頁)…

「<http://www.jsda.or.jp/shiryochousa/nisajoukyou.html>」、

2014 年 11 月 4 日付日本版 ISA の道 その 78「ジュニア NISA vs こども(学資)保険! NISA vs 英国ジュニア ISA・米国 529 プラン!!」…「<http://www.am.mufg.jp/text/141104.pdf>」、

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご留意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。